

国際園芸博覧会「パシフィックフローラ 2004」と植物検疫体制

平成16年4月8日から10月11日までの187日間、静岡県浜松市において「花・緑・水～新たな暮らしの創造～」をテーマに、しずおか国際園芸博覧会(愛称:浜名湖花博)が開催される。

国内での国際園芸博覧会は、平成12年に兵庫県淡路島で開催された「ジャパンフローラ2000」以来である。

本博覧会では、20を超える国から多種多様な樹木や花きが輸入され、展示・栽培される。開催場所となる浜名湖一帯は園芸地帯であり、病虫害の侵入警戒調査には万全を期す必要がある。

侵入警戒調査に役立たせるため、平成15年4月から博覧会会場周辺の3地区(北庄内、南庄内、村櫛)で植物相及び病虫害相の事前調査

を行っており、平成15年12月現在で、18科39種の植物から25科76種の害虫及び4種の病害の発生を確認している。

侵入警戒調査は、名古屋植物防疫所が静岡県病虫害防除所、静岡県西部農林事務所及び(財)静岡国際園芸博覧会協会の協力を得て、博覧会開催中及び終了後1年間実施することになっている。博覧会会場内にミバエ類、コドリシ、アリモドキゾウムシ等の検疫有害動植物を対象とするトラップを設置する他、博覧会協会の協力を得てライトトラップも設置することになっている。この調査等を通じて検疫害虫の侵入防止に万全を図り、本博覧会の成功に寄与できることを願っている。



花博会場周辺

海外のニュース 分布の広がりを見せる新顔のネコブセンチュウ

ネコブセンチュウは根などに寄生して、こぶ(ゴール)を形成し、養水分の吸収を妨げるため生育障害や著しい場合には枯死を引き起こす。

Meloidogyne fallax は、1992年にオランダ南部及び南東部地域のジャガイモほ場で最初に発見された。発見当初は *M. chitwoodi* の1系統と見られていたが、形態や寄主植物、さらにタンパク質やDNAを用いた生化学的手法による詳細な調査の結果、*M. chitwoodi* とは異なる線虫であることが判明し、1996年に新種として記載された。本線虫は、その後1998年までの間に周辺国のドイツ、ベルギー、フランスで、2001年にはオーストラリア、ニュージーランド及び南アフリカで新たに発生が確認された。

M. fallax は、ジャガイモの他にニンジン、トマトなどの重要作物を加害する。*M. chitwoodi* がトウモロコシ、インゲンマメなどに寄生するのに対して、本線虫はこれらの植物には寄生しないことが知られている。

本線虫は、根に比較的小さいこぶを形成し、加害が進むとジャガイモの塊茎やニンジンの主根の表面にも、小さい腫れ状のこぶを多数形成する。

ヨーロッパ・地中海地域植物防疫機関(EPPO)では、ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモシロシストセンチュウ、ニセネコブセンチュウ、*M. chitwoodi* と並んで本線虫はジャガイモ検疫の重要有害線虫となっており、発生地域からの侵入・まん延を警戒している。

(参考: http://www.eppo.org/QUARANTINE/Data_sheets/melgfa/dsmelgfa.html, Crop Protection Compendium, 2003 Edition)

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 奥 富 一 夫
編集責任者 高 山 睦 雄
印刷所 内村印刷株式会社